

社交ダンスからみた性と生  
- 制度化されたエロスの交歓 -

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
家族機能・社会臨床クラスター  
湊 美智子

本研究は、日本における社交ダンス愛好家たちの特徴と、一般的な社交ダンスの扱われ方を検討することにより社交ダンスの現状と存在意義を抽出し、そこに見出されたセクシュアリティとエロスの姿について検討を行った。社交ダンス愛好家たちは表面的には日常的スポーツとして、また健康維持のツールとして楽しんでいるが、その裏側で非日常への憧れや一人では満たしえない男女の関係性についても社交ダンスの中で満たそうとしていることが分かった。社交ダンスは男女の踊りであり、男女関係のバリエーションのひとつとして考えられる。しかし、愛好家たちが社交ダンスについて語るときには性的な要素はやや控えめに語られるか、スポーツ化して語られることが多い。また、社交ダンスにネガティブな意見を持つ人々は社交ダンスに含まれる性的な要素に対して嫌悪感を抱いていることも分かった。そのことは、欧米では一般的な公におけるカップル・ダンスがわが国では風俗営業法の対象とされていることと無関係ではない。わが国の社交ダンスに対するネガティブな意見を十分踏まえたうえで、愛好家たちは社交ダンスをしていることについて主に周囲からうらやましがられていると感じていた。調査の中で見えつつある社交ダンスのもつ性的な特徴-すなわちセクシュアリティやエロスについてより質的に明らかにするために、自由な意見を求めてさらに聞き取りを行った。すると、愛好家たちは社交ダンスを「性の開放ツール」として用いているという側面があることが分かった。20年前の調査では語られなかった社交ダンスにおける男女の関係性と「性の開放ツール」としての側面は、時代の中で密室に押し込められてきた日本の性の姿そのものを現しているといえる。